

令和6年第1回おおい町総合教育会議 議事録

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和6年2月7日(水)
午後4時00分～午後5時08分
- (2) 開催場所 里山文化交流センター 活動室Ⅰ・Ⅱ
- (3) 出席者 中塚町長
菅原教育長、藤原教育長職務代理者
小野義一教育委員、藤原はるみ教育委員
谷口千裕教育委員
- (4) 事務局 知見学校教育課長、岡学校教育課長補佐、
新谷社会教育課長、井関社会教育課長補佐
大上社会教育課長補佐、松本社会教育課長補佐
早川学校教育課主査、岸田部活動地域移行コーディネーター
- (5) 傍聴者 なし
- (6) 協議事項 ①おおい町中学校休日部活動における地域移行について
②その他

2 会議発言概要

1 開 会 令和6年第1回おおい町総合教育会議を開会

2 あいさつ 中塚町長

日頃は、おおい町の教育行政全般につきまして様々な角度からご意見を賜っており、誠にありがとうございます。

町では一生懸命子どもたちを支えるためにIT化など様々な先進的な取り組みをできるだけ導入しようとしておりますし、現場でも頑張っていると思っています。また教育長の方で提案いただいたAI等々も活用させていただきながら教育の向上に資するために一生懸命取り組んでいるところでございます。今後とも皆様方に様々な角度から色々ご示唆をいただきつつ、一生懸命取り組んで参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、議題にございましておおい町の中学校休日部活動における地域移行についてということで、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 協議事項

おおい町中学校休日部活動における地域移行について
《資料に基づき事務局が説明》

- ・これまでの国、県の動き
- ・おおい町の現状と課題
- ・部活動の加入状況
- ・おおい町のこれまでの取組み
- ・今後の取組等
- ・アンケート結果の報告

《中塚町長》

ただいまの説明についてご意見、質問はございませんか。

《教育委員》

今後の方針の中の休日部活動の「休日」というのは、どの曜日または祝日、何を指しているのか。

《事務局》

中学校の部活については主に土曜日に活動しており、その土曜日が休みになる。現在、日曜日は活動していない。

《教育委員》

土曜日に活動している、その「土曜日」を月1回休みにするという意味なのですね。祝日はどうですか。

《事務局》

そのとおりです。祝日は学校によって考え方があり、活動している所もあればしていない所もある。

《教育委員》

未確認ということですね。

《事務局》

はい。未確認です。

《教育委員》

現在の中体連の方向性は知らないが、土日を含んで開催されていると思うが、大会、練習試合、大会前の活動など特例扱いはある得るのでしょうか。

《事務局》

中体連の大会も以前は土日開催だったが、最近は平日開催が増えてき

ている。部活動の地域移行、教職員の働き方改革もあり平日開催となってきた。ただ、平日開催だと審判が仕事を休めないなどの問題も発生してきており、難しい種目もあるように聞いている。

確かに練習試合も休日に行わないと平日は授業もありますので全部行わないというのは難しいと思っている。

《教育委員》

特例もあり得る中での方針なのですか。

《事務局》

そういうことです。

《中塚町長》

アンケート結果から「部活動に興味がない」「何もしたくない」というパーセンテージが上がってきているのはわからないでもないが、部活動の意義や精神的なメンタルの部分、あるいは体力的な面など身につけるべき良いところも学べるはず。教育現場でできるかできないか、または地域スポーツでできるかできないかというところから可能かどうかという切り口で入ってしまうと物事をゆがめる。子どもたちにとってより良いものを提供しようという視点に立ってスタートしなくては。

こういうアンケート結果が出ました、だけをもって端的に物事を進めていくのはどうなのかなと思う。どういう場を提供してあげるのが子どもたちにとって有意義なのかという視点を持たないと怖いかなと思って説明を聞いていた。

《事務局》

アンケート結果の分析不足はあるが、町長がおっしゃったように一番は子どもたちにとってより良いものが何であるかということが大前提にあると思っているのでその視点で検討していきたい。

《中塚町長》

数字だけが踊ってしまうと誤解を招きかねない。できるだけ休日は活動したくないとかいう話でどんどん進んで行くのは違うかなと思っている。

子どもたち目線で、この世代で、何をスポーツを介して学んでいただくべきかというようなどころから分析をしつつ、子どもたちの考え方、または保護者の考え方と乖離してもだめなので、乖離している部分をどう埋めていくかということも大事。現実問題として、そういった場を提供できないとすると、どういう選択肢があるのかという課題を分析して掘り

下げて、令和7年度をどんなふうに関わっていくかということが必要。

地域スポーツクラブの活動に参画をしていただくということは受け皿の問題もあるので、スポーツ協会あるいは各種目協会に対応できる協会もあればできない協会もあるので、現場サイドと話をさせていただくことが必要と思っている。

我々の指導体制、地域スポーツクラブも含めて指導体制が脆弱なところがあるので、なかなか都会並みにはいかないが、今頻繁にやられているWebを媒体にしてリモートでの指導というのもあると思うし、決してその地域内で完結をしなければダメだということもないでしょうし、協力をして機会を求めることによって相乗効果的なところもあるのかもしれない。

ぜひ子どもたちにとって何がベストなのかという視点を持っていただきたい。

《菅原教育長》

休日活動を学校から切り離すということは、現在の学校への負担、そもそも制度的に無理があるという状況で、そうしていかざるを得ないというのが現実です。

教育委員会として、子ども目線でどのようなことが本当に必要かということに向かって、教育委員会事務局はしっかり汗をかいて動いていく必要があると認識している。その中で、現実、国がそもそも地方の反発を受けて予算の削減をするとか、3年間で撤退するというところからトーンダウンしている現実がある。

おおい町の教育委員会も目指すべきところと現実との間で苦慮している。その結果が生み出してきたものが現にこの状況だというふうに認識している。その中で、何ができるかという方向に進まなければいけない。

《中塚町長》

教員の働き方改革というハードルもありますし、地域に指導者がいないということもありますし、地域スポーツクラブの充実している所とそうでない所、様々あると思うが、できるだけ理想を追いかけながら何ができるか、何をすべきかという思考をしないといけないのはおそらく県、国に対して私の立場で言うべきことはたくさんあると思う。

動き始めてしまうと固定化されしまう可能性があるのでは、動き始める前にアクションを取らないといけないと思っている。地域間格差というか不合理的をどう考えたらいいか、不公平な教育での場面もたくさんあるのでそれを言っておかないと動き始めたらもうアウトになる気がする。

《教育委員》

アンケート結果からも子どもが同じものを続けてやりたいという数字的には多いですけど、新聞では福井市の取組みは問題ないと出ましたが、福井市ならと思ってしまう。

おおい町だと現実問題、7年度月3回、8年度以降活動しないとなると、土日はもうフリーになっていくという現実の中で、おおい町は本当に取り残されて行く。したいけど何もできない。高浜や小浜に行けばできる、そうやっていった時に大会出場というのが、学校の部活動の取り組んできた1つの目標に、大会でいい成績を出すとか、そういうものを子どもたちに持たせながらも日々そのために努力して、部活動の中で鍛えられたきたが、学校として平日の活動というのは一体どういう姿、何を目指して、今仲良く仲間と活動していけばいいのか。

おおい町の子どもたちを育てていく方向性として、土日もやれる環境をなんとかできないか。その中で野球は環境を整えられたのでそれは良かったと思う。方針を掲げて本当に8年度から土日は活動しないというのがどういう3年後が来るのか心配。

《中塚町長》

私もスポーツに関わってきたので、スポーツを通じて学ぶ学びがあると思ってきました。特に中学生という多感で思春期のエネルギー溢れる子どもたちがスポーツを通じて、ぶつかったり学びを得たり、仲間と一緒に達成感を味わったりというのは、人間形成にとっても重要な部分だろうと思っている。どんなふうにそういった場を提供できるかという工夫は当然必要ですが、そういった機会が充実しないと、衰えてしまった教育の部分はどこで補うかということも考えなくてははいけない。

一つの選択肢だけ追い求めてそれが無理だったらやめるのではなく、工夫していかないとと思っている。

その一つがスポーツ協会、種目協会もありますし、もう少し踏み込んで申しあげると、体育施設が潤沢にあるおおい町において、管理運営する(株)おおいの取組姿勢に加えてスポーツに親しんだ或いは能力を持った皆さんが就職してもらうことによって施設の活用方策も生まれてくると思う。

子どもたちにとってせつかくの機会を失ってしまったままになるのはつらいと思っている。部活動の選択肢が減り、個人種目でないとできないような選択になってきたりしているが、子どもたちにとっては不幸とされていて、好きなことをやらしてあげたい。

県レベルで言えば、与えていただいて当然だと思うので、子どもたちには同じだけの選択肢をいろんな意味で働いて下さいと知事には申しあげている。ただ、どうしても現実不可能という困難性のある部分も承知している。

《菅原教育長》

地域移行、地域連携ですけれども、部活動にとどまらず、教育の転換点だと思う。学校の学習基準である学習指導要領に部活動は掲載されているが、教育課程内、国が基準を示す教育課程内ではなく教育が課程外の活動として掲載されていて、学校が計画実施する。

今後、学習指導要領、次の改定でこの部活動が書かれるのか、書かれないのか、どのように書かれるのか、今、非常に注目されている。

一方で、地域移行は実証実験ということで、国、県の補助金を受けて各市町取り組んでいるが、補助金財源がどうなっていくのか不透明なところがある。全国的には平日部活動がゆる部活動というかシーズンスポーツ的な部活動にしてきている自治体も出てきている。

先行きがどうなるかわからない状況で情報提供の一つだが知っておいていただければと思っている。

《中塚町長》

社会の構造を作ってしまったのは国。首都圏の出生率低くて人口を減らして半減させる。このままでは2100年の人口は6300万人になる。6300万人になると日本の社会保障制度がもたない。だから異次元の少子化対策をし子どもたちを増やそうとしている。

首都圏の大学等の定員が首都圏に住まいをする生まれた子どもたちの定員に比べてほしい年間13万人ほど転入超過になっている。首都圏の大学教育機関等の定員が多すぎる。それを地元に戻すとか、地域の人口のある程度固定人口を防ごうとするような取組みというのは50年間放置されてきて、何も取り組んでいただけてない。

だから学校の問題、部活動の問題、あるいはバス、鉄道、買い物、いろんなものに格差が生じてきている。その社会構造なんだからということで子どもたちはどこに住まいをしようと平等なので、都会は放置してもいいが田舎はそうはいかないところをちゃんと手当してほしいという声を上げていかないとだめ。言わないと地域の責任にされてしまうので、しっかりとこの検討の過程で取り組んでいただきたいと思っている。

《井関社会教育課補佐》

部活動の話とはずれるが、先ほど町長がおっしゃったスポーツ協会ですが、各種目団体が構成の中に入っているが、実際活動人数も減ってきている。

今回こういう形でたまたま学校の部活動が休日なくなるという中で、子どもたちも協会の各種目と関わることで活動団体の活性化にもつなげていくということを協会としても考えている。

今すぐではないが、種目団体に対して支援的な部分が協会としての活動に多いが、今後、部活動が完全に休日なくなるような場合に備えて、広い視野で町民のみなさん、子どもたち含めていろいろな活動に対してスポーツ協会が普及していくような立場で物事を考えていきたいと、会長は話している。

《中塚町長》

活性化していくと子どもたちの大好きな競技に親しんでもらえることが可能なのかな。

やっているところとやっていないところの格差、一生懸命やれるだけの努力する場、やれるだけの土俵を与えて競争するというのならわかるが、学校単位、地域単位で格差が生じてしまうと充実で終われない活動になってしまうと危惧する。県レベル、中体連はどう考えているのか気になる。

《菅原教育長》

情報収集を事務局としてしっかりとしていかないといけない。議論を進めるよう申し入れをする必要はある。

4 閉 会 令和6年度第1回おおい町総合教育会議の閉会。